

厚真町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

概要

厚真町は南北に細長く、市街地が2つ存在するほか、郊外に集落が点在する構造となっており、移動手段が確保できない交通空白地帯が存在し、また、高齢化の進展や核家族化の進行により、バス利用が困難となっている高齢者の増加や外出手段の選択肢が少ないことなどの問題が顕在化していた。さらに、買物や通院等の日常生活に必要な移動について、隣接都市である苫小牧市や千歳市への移動も多くなっており、地域間幹線バス路線との接続改善も課題となっている。

地域公共交通の現況

- ・JR日高本線(浜厚真駅)
- ・あつまバス(株)(9路線)
- ・道南バス(株)(町内経由3路線)
- ・循環福祉バス(5路線)
- ・スクールバス(7路線)

厚真町地域内フィーダー系統確保維持計画の目標・効果

目標
循環福祉バス(デマンド型乗合タクシー)利用者を5,000人以上とする。

効果
町内における公共交通を維持することにより、高齢者等の買い物・通院等の生活に係る移動を確保することができる。
地域間幹線系統との接続により広域的な移動を支援することができる。

厚真町地域活性化協議会開催状況

- 平成24年6月26日 第14回協議会を開催
主な協議事項
- ・地域内フィーダー系統確保維持計画の変更について
 - ・自家用有償旅客運送の変更登録について
 - ・地域公共交通活性化協議会補正予算について

平成25年度事業概要

町内全域を5系統(5地域)で、交通不便地域と中心市街地及び地域間幹線系統(苫小牧線・千歳線)を結ぶデマンド型運行を15人乗車両で行う。

5系統 ①幌内線 ②新町・美里線 ③朝日・東和・宇隆線 ④豊沢・軽舞・豊丘線 ⑤豊川・共栄線

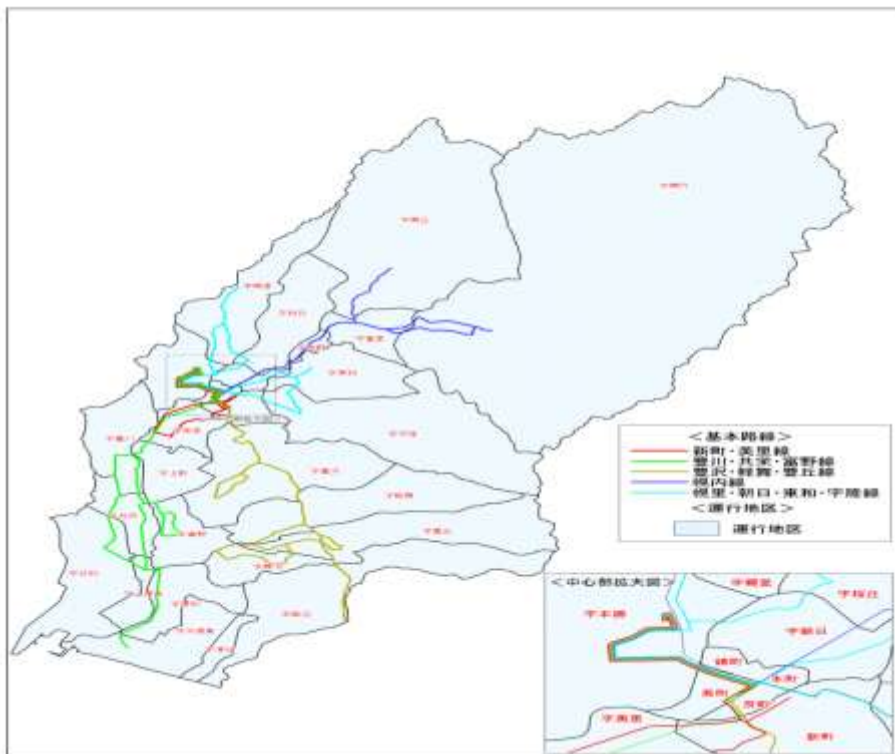
平成25年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

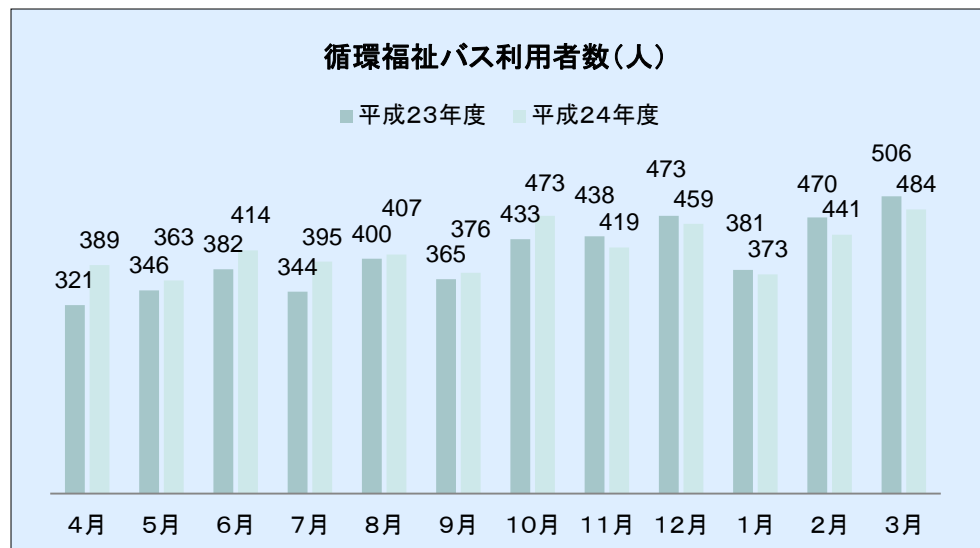
車両は、自宅前まで送迎できるよう15人乗車両とし、高齢者が乗降しやすいよう乗降用電動ステップ・ハンドレールを装備した。

2) 運行ルート

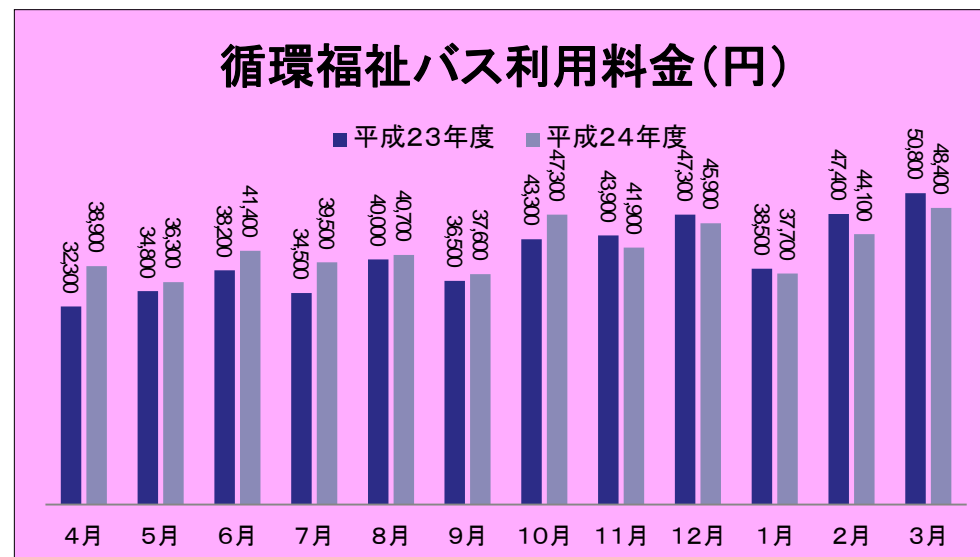
【交通不便地域図(厚真町全域)】



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

5系統

①幌内線	火・木・土曜日	1日3回運行
②新町・美里線	火・木・土曜日	1日3回運行
③朝日・東和・宇隆線	火・木・土曜日	1日3回運行
④豊沢・軽舞・豊丘線	月・水・金曜日	1日3回運行
⑤豊川・共栄線	月・水・金曜日	1日3回運行

1日3回運行 156日間

予約時間 午前8時から午後7時まで

計画どおり事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

デマンド型乗合タクシーの利用者は、年間5,000人以上(上半期2,500人・下半期2,500人)に対し年間4,993人であった。但し、平成23年度の利用実績者は4,859人であり、利用者数は前年対比で増加している。

また10月から3月までの利用者は2,649人で目標利用人数が149人上回り目標を達成した。

これにより、高齢者等の買物・通院等の生活に係る移動が確保でき、地域間幹線系統との接続により広域的な移動を確保することができた。

7) 事業の今後の改善点

運行形態が予約制による自宅から市街地中心部の目的地(地域間幹線系統発着所含)までの運行に変更され、利用者数も増加傾向で推移しているが、デマンド型運行の現状における利用料金は1回あたり100円と低料金となっており、逼迫した財政状況の中、多額の運行経費をかけていることから運行の収支の改善を図るためにも利用料金の見直しを検討する必要がある。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

自己評価のとおり適切に事業が実施されている。

利用者数は順調に推移しており、年間目標の達成が期待できる。

乗合タクシーを持続可能にするため、利用料金の見直しに着手する点は非常に評価出来る。ただし、住民が納得できる水準と持続可能な水準の折り合いをつけなければ、利用者的大幅な減少を招きかねないので、住民説明を懇切丁寧に行うことが望まれる。